

## 「会員短信 59」

### 「私の名前①」

### ほりもとちか

私の俳号は「ほりもとちか」です。何故「ほりもとちか」としているのか種明かしを致します。

私は、高校生の時、中原中也や立原道造の詩集を愛読していました。国語の先生に可愛がられていたのですが、その先生から読むだけでなく自分でも作ってみなさいと勧められて文芸部に入りました。

ところが、二年生の終わり頃に、席だけ置いていたバドミントン部で、一年上の主将から、次の主将をやれと命じられました。とことん拒否したのですが、どうしても他に人材がなく、押し切られて引き受けざるを得なくなりました。

キャプテンともなると細々した仕事があります。練習場の確保や試合の申し込み、連絡、調整、部員の引率などなどです。文芸部で詩をつくるような個人活動ではないので、バドミントンだけで手一杯になってしまいました。

結局、国語の先生には恨まれて「バドミントン大学へ行くんですか」と嫌味を言われました。詩はやりたかったのですが、どうしようもありませんでした。主将をやれと言った先輩には後々まで振り廻されて、大学を卒業した年の十月には秋田国体まで行く羽目になりました。

その後、結婚、子育てが少し落ち着いた頃に、無性に詩が書きたくなり、小野十三郎さんがつくられた大阪文学学校に入学しました。詩の勉強を一年間やりました。小説家の田辺聖子さんも卒業生で、私の後輩になります。